

発 言 通 告 書

発言者氏名	大村洋子
発言の会議	令和7年11月27日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

Ⅰ 浦賀駅前周辺地区活性化事業について

- (1) 「民官連携」による事業推進において、事業者としての収益性の追求・確保と地元住民に資する場との整合性をどのように図っていくお考えか。
- (2) 市として今後どのような規制緩和が必要とお考えか。
- (3) 計画案では高層の建築物が示されているが、海の景観・眺望とどう整合性を図っていくお考えか。
- (4) 「浦賀レンガドック」は文部科学省文化庁の重要文化財指定を目指し、後世にしっかりと残していく姿勢が大切だ。同時に造船技術の継承の地としても残すことが望ましいと考える。併せて市長のお考えを伺う。重要文化財指定については教育長にも伺う。
- (5) 浦賀を周遊し満喫できるガイダンス機能を持たせることも必要と思うが、いかがお考えか。
- (6) 長きにわたり、船渠工場としての歴史を持つ住友重機械工業跡地は、土壤汚染の実態を軽視できない。安全安心に土地を活用するための予算配分や対応について、どのような御所見をお

持ちか。

- (7) プロジェクト成功の鍵は、地元地域の住民意見をしっかりと丁寧に聞き取り、一緒になって進めていくという姿勢である。市長の御所見を伺う。
- (8) 現時点で、本市の持ち出しの概算はどのようになるとお考えか。

2 公園における「表現の自由」について

- (1) 昭和 48 年に「公園内の集会等の行為の取扱い」という基準ができ、そこに集会ができる公園としてヴェルニー公園（当時は臨海公園）が限定された。市長はこの基準についてどのような御所見をお持ちか。また、ここに記載されている「集会等」とはどのようなものを指すとお考えか。
- (2) 「私はあなたの意見には反対だが、それを主張する権利は命がけで守る」という有名な言葉がある。フランスの哲学者ヴォルテールの精神を象徴するものとして、伝記作家の S・G・タレンティアが書き記したものとされている。この言葉の中にある多様性の尊重、異なる意見を主張することの許容が今最も大切にされなければならないと私は考える。「日米軍事一体化」に反対する客観的情勢、ムーブメントの広がりの可能性を考えると、それを保障することが大切と考えるが、市長の御所見を伺う。

3 「受益者負担の原則」について

- (1) 「受益者負担」について市長はどのようなお考えをお持ちか。
- (2) 手数料も含め系統的に明確に整理して、「受益者負担の原則」について本市の考え方を市民に示してはいかがか。

4 米海軍基地を抱えるがゆえの「逸失利益」について

- (1) 米軍基地があることでの財政需要については普通交付税の地

域振興費の密度補正、通称、基地補正と呼ばれているもので措置されている。しかし、国から内訳が示されていないため、充当率はわからない。そもそも、本市は平成 24 年以降、正確に基地の外に住む米軍関係者の把握ができないことから、正確に交付税措置されているのか否かを検証することもできない。市長はこのような現状についてどのような御所見をお持ちか。また、本市が被る「逸失利益」に対してどのような改善策をお持ちか、併せて伺う。

5 米軍人による交通死亡事故について

- (1) 米軍は日本の道路交通法が適用されない。日本人が交通死亡事故を起こせば、即時、運転免許の取消しとなるが、米軍は運転免許の取消しにも停止にもならない。米軍は「許可証」によって自動車の運転を行っているというが、交通死亡事故を起こした米兵自身、この「許可証」を取り消されたのか停止にされたのかもわからない。市長はこのような現状に対してどのような御所見をお持ちか。
- (2) 交通安全教育の実施については日米合同委員会において議論されていると承知しているが、どのような進捗となっているか、伺う。
- (3) 方向性が見いだせない現状において、「良き隣人政策」の一環である日米親善よこすかスプリングフェスタを今までどおり続けてよいのか。中止を視野に入れるべきではないか、御所見を伺う。

6 横須賀における戦争の史実を捉え返し残していくことについて

今年は戦後 80 年、昭和 100 年ということで、本市の自然・人文博物館では特別展示「昭和 100 年横須賀の歩んだ昭和」が、図書館では企画展示「20 世紀前半の横須賀と出版」が、それぞれ行われている。私は以前から本市が旧軍港市転換法に基づき、まちづくりをしてきた歴史を考える中で、横須賀にとって、戦争は切っても切れないものだとの認識を強めている。

- (1) 本市が歩んだ特異な歴史をしっかりと節目、節目に市民に公表し、後世に残していく作業は大変重要であると思うが、市長、教育長の御所見を伺う。
- (2) 特別展示、企画展示を行うに至った経緯、位置づけ、意義、御苦労された点などについて教育長の御所見を伺う。

7 グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン（GNF-J）で起きた2度の火災事故と安全対策について

- (1) 2度も繰り返されたGNF-Jの火災事故について市長はどのような御所見をお持ちか。
- (2) 先日のGNF-Jの住民への説明を聞く中で、現在、2万本のドラム缶が施設内に保管されているということが明らかになった。原子力発電所の再稼働が強引に進む中、既に保管されている放射性廃棄物の管理と、安全対策がますます重要になると思うが、地元自治体として、今後どのように対応していくお考えか。

8 PFASについて

- (1) 本年10月24日付で南関東防衛局から情報提供のあった「横須賀海軍施設のPFOS等を含む排水に関する周辺海域の分析結果について」の御所見を伺う。
- (2) 南関東防衛局と本市環境部実施のPFASモニタリングはPFOSとPFOAの2種類だが、ここにPFHxS（ペルフルオロヘキサンスルホン酸）も加えてはいかがか。
- (3) 本市には「かながわ環境整備センター」があり、浸出水、放流水について、毎月、様々な元素、化合物、イオン等のモニタリングを行っている。モニタリング項目の中にPFASを入れるよう市長から提案してほしいと思うがいかがか。
- (4) 米海軍基地内の粒状活性炭フィルターが稼働停止して2年が過ぎた。米海軍は日本の法令にPFOS等の排水基準が設けられていないことから、JEGSの改定論議ができないとの主張

だ。本市は排水基準を定めるよう国に要請しているところだが、進捗はいかがか。また、その現状についての市長の御所見も併せて伺う。